

かまくらかいどうかみつみち まな
鎌倉街道上道 学べるクイズラリー

かいせつ
クイズのこたえと解説

かまくらかいどうかみつみちまな
鎌倉街道上道学べるクイズラリーにご参加いただき、ありがとうございます。こたえと解説をらん
いただき、くにせきかまくらかいどうかみつみち
いただき、国史跡鎌倉街道上道のことをさらに深く知って、ぜひ、また鎌倉街道上道に来てください。

かまくらかいどうかみつみち みち
チェックポイント1 「鎌倉街道上道 道のつくりかた」

こたえ 2 ほりわり
掘割

かまくらかいどうかみつみち かまくらじだい かんが
鎌倉街道上道ができたのは、鎌倉時代のはじめごろと考えられ
ています。こふんはさらにふるい 古墳時代につくられたもので、
こふん じめん もと たか
古墳のある地面が元の高さということになります。



ほりわり
掘割より高い地面にある古墳

ほりわり こうほう おこな じめん みち
「掘割」の工法を行って、地面をほりくぼめたのは、道をなだらか
にするためでしょう。

かまくらかいどうかみつみち おつべがわ む きた
鎌倉街道上道のチェックポイント1のあたりは、越辺川に向かって北にくだっています。

このへんは、おおるい 大類グラウンドにあつた じゆくぼ 宿場のてまえですので、きゆう 急なくだり坂にならないよう、ほりわり 掘割にし
たのかもしれない。

1のみぞ道とは、はたけ 畑などの水をながす、みず 水の道のことなどをいいます。

3のほそ道は、アスファルトやじゃりなどをして、道をかためることです。

みち ちか
チェックポイント2 「道の近くにのこされた塚」

こたえ 1 さんびきのさる 

ちい 小さなお山(古墳)の上になつているいしは、こうしんとう
「庚申塔」といいます。えどじだい 江戸時代のはじめごろになつてられました。



この庚申塔は、350年ほど前の大類村の人々がたてた
ものです。

こうしんとう
庚申塔の下のだんには、三匹のさるがほられています。

2や3のように、ひと 人がすわっているようにも、こ 子ぶたのようにもみえるかもしれませんが、これはさんびき
のさるをあらわしています。

左から、言わざる・聞かざる・見ざるの順にならんでいます

「見ざる、言わざる、聞かざる」という仏教のおしえをあらわしているといわれています。(注1)

それは、わるいことを「見ない、いわない、聞かない」といういみです。

友だちの悪いところばかりを見たり、わるくち 悪口をいったり、わるくち 悪口を聞いたりすることはいやな気持ちになり
ますよね。そのようなわるいものにふれないように、み 身をつつしむということを教えています。

また、さるはかみ 神の使いともいわれていて、「庚申塔」には必ずといっていいほど、さるがかかれています。
す。ほかにも、ちか 近くにさるがかかっている石の塔があつたら、それは「庚申塔」かもしれません。

(注1) 孔子の『論語』にある「非礼を見ず、非礼を聞かず、非礼を言わず」という言葉を、天台宗の僧が中国から伝え、「耳は人の非を聞かず、目は人の非を見ず、口は人の過を言わず」という教えとして庚申信仰に取り入れたという説のこと。

チェックポイント3 「崇徳寺跡のお墓は、どんなところで見つかった？」

こたえ 2 すこしだけ高くなっているところ

崇徳寺跡に行ってみると、まん中あたりに小さなお山(古墳)があるのがわかります。

お山のところまで行こうとすると、でこぼこしたところをとおっていかないと、行けません。これは、お墓にしたところだけ、土をもつて、すこし高くしたり、まわりにみぞをほって、ひくしたからです。

今も、お墓をつくる時は、すこし高いだんをつくって、そこがお墓だとわかるようにします。

むかしの人も、同じように、お墓にするところはすこし高くしていたようです。

このクイズは、崇徳寺跡の地面のでこぼこをよ〜く観察しないとわからない、むずかしい問題でした。

でも、崇徳寺跡のとても重要なポイントです。

遺跡の発掘調査をするときは、このようによ〜く観察しないとわからないような、地面のだん差や、地形などを見て、調査をおこないます。



崇徳寺跡の中にある古墳と、お墓の場所

チェックポイントD 「延慶の板碑の下にあったのは？」

こたえ 1 ほねの入ったうつわ

延慶の板碑を、昭和37年(1962)に、崇徳寺跡から、今のところについたとき、板碑の下から2つのうつわが見つかりました。中には、やいた人のほねが入っており、骨つぼだったようです。うつわの上のあなが小さいのは、もともとほそいくびが、上についていたからです。ほそいくびの部分をとって、骨つぼとしてつかたと考えられます。

2つとも、今の愛知県の瀬戸というところで作られたもので、大きいうつわには、花のもようがえがかれています。

延慶の板碑が作られた1310(延慶3)年ごろには、このような遠いところで作られた、りっぱな焼き物のうつわは、とても貴重だったので、さいごは骨つぼとして、大事につかわれたようです。

2の刀は、お墓である古墳の中に、なくなった人といっしょにおさめられたり、今でもなくなった人のお棺の中に、お守りとして刀を入れることもあります。延慶の板碑の下にはありませんでした。

3のお金も、なくなった人といっしょにおさめることもあります。延慶の板碑の下からは見つかりません。



延慶の板碑の下から見つかったほねの入った2つのうつわ

チェックポイント5 「鎌倉街道の宿場はどんなところにつくられた？」

答え 1 道が川にぶつかる低いところ

鎌倉街道上道沿いの宿場町は、川の両がわにつくられている例がいくつもあります。

これは、川をつかって人やものをはこんでいたからだと考えられます。

鎌倉街道上道がつかわれていた時代は、馬や牛にもつをのせて、道のあるいはこぶだけでなく、川をふねでくだり、にもつをはこぶことも、たくさんおこなわれていました。

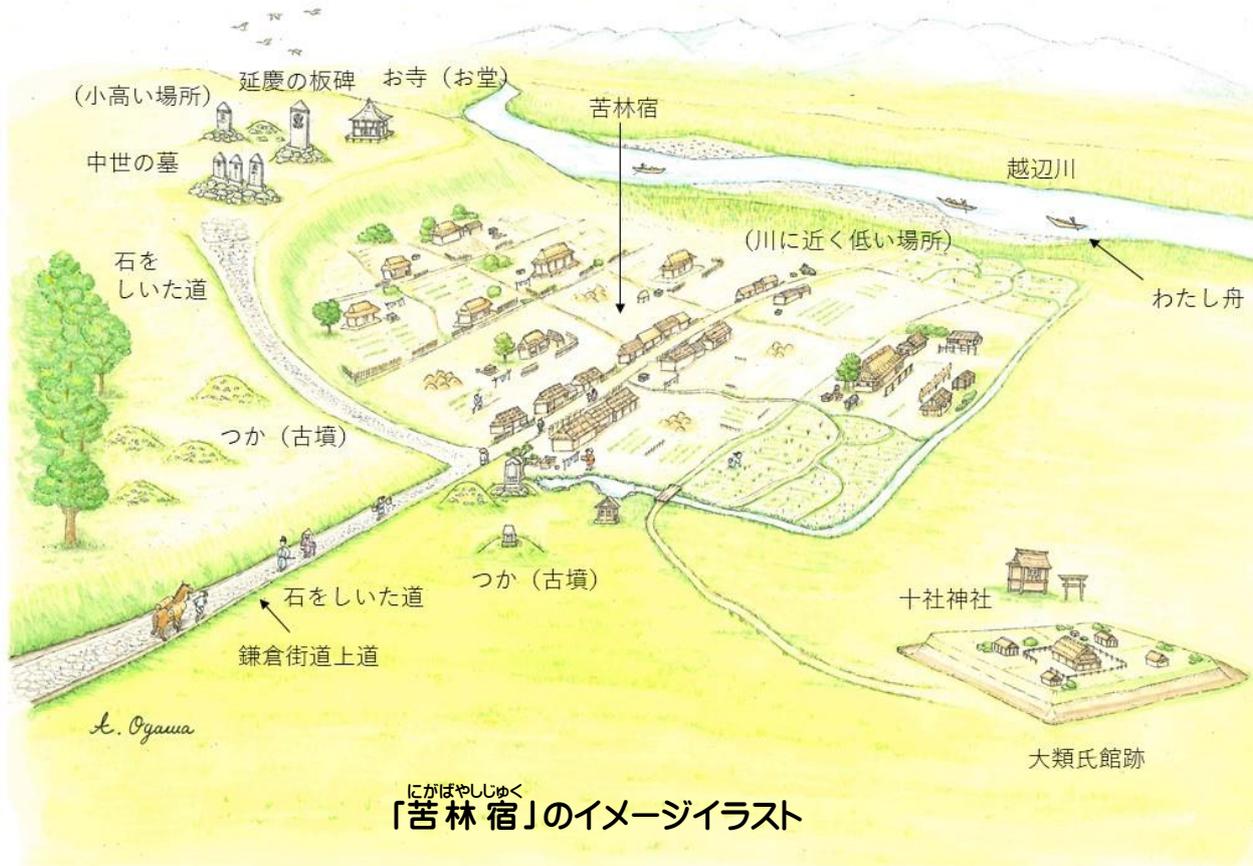
毛呂山の鎌倉街道上道にあった宿場「苦林宿」も「越辺川」の岸につくられた宿場で、人やものが、たくさんいききする宿場だったようです。

ただし、橋は自由にかけることはできなかったため、越辺川に橋はなかったようです。

「苦林宿」の遺跡からは鎌倉街道上道にそってたてられた家が、いくつも見つかると、家の近くには、いくつもの井戸もありました。

また、台所でつかうおなべやお釜などの道具、中国大陸や、今の愛知県からはこばれてきたやき物のはへん、めずらしい石のおなべなど、「苦林宿」には遠いところから、めずらしいものも集まってきていたようです。また、愛知県から、大きなかめもはこばれてきました。

このことから、「苦林宿」は、川をわたる旅人や、にもつをはこぶ人々で、にぎわっていたのではないかと考えられます。そのため、道が川にぶつかる低いところに宿場をつくったほうが、川をわたる人をふねに乗せたり、にもつをふねに乗せて、今の鳩山町のほうへ送ったりするには、べんりだったのでしょう。



「苦林宿」のイメージイラスト

「鎌倉街道上道」と「苦林宿」の遺跡は、今も大類グラウンドの地下に、保存されています。

宿場から見つかったいろいろなものは、毛呂山町歴史民俗資料館に展示していますので、ぜひ、ご来館ください。